

(様式1)

令和7年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 042	提案機関名 (一社) 神奈川県畜産会
要望問題名 都市型畜産での家畜飼養衛生管理のIT化(スマート畜産)とAI化の実証試験	
要望問題の内容【背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等)】 都市近郊の畜産業を営む中で、永続的な労働力(労働賃金)の確保は他業種との労働賃金格差もあり困難になりつつある中で、近年のIT化やAI化に関する施設機械が急速に開発され進みつつある現在にあって、多種多様な企業メーカーから多種多様な施設機械が提案されている。中小規模が大多数な当県の畜産規模で費用対効果のある有効的なIT及びAI施設機械の検証をお願いしたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画指導部
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) 生体センサを用いた繁殖管理に関する研究(R4～R6)		
対応の内容等	IT化、AI化には一定の初期費用と維持費がかかることや、その設備を運用・維持する知識・能力が必要となるなどの課題があります。また、費用対効果については、経営体ごとに異なるものと考えます。 導入にあたっては、初期費用もかかるため、各経営体の現状を詳細に分析し、施設機械についてもそれぞれに合ったものを個々に導入する必要があると考えますので、経営体ごとに現地対応していきたいと思えます。 一方、当所においては、乳牛の尾根部に体表温と尾部加速度を測定するセンサを装着し、繁殖管理を行うシステムを研究しており、人的負担軽減に対する有効性について検証しているところです。		
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			